

博修士会会報

Alumni Bulletin For K.U.Masters and Doctors 2013年7月1日発行

▲「以文館」エントランスホール



ごあいさつ

関西大学博修士会会长 北嶋 弘一

関西大学博修士会は、昭和27年（1952年）に設立されて以来、昨年創立60周年の記念総会を迎えることができました。会員の皆様におかれましては、ますますご清祥にて各地ならびに各界においてご活躍のこととお慶び申し上げますとともに、平素より本会の活動に対しまして心温まるご助言をはじめ特別協力金のご寄付など数々のご支援を賜りまして厚く御礼申し上げます。

一昨年に発生しました戦後日本がかつて経験したことのない未曾有の東日本大震災の復興が遅々として進まぬ現状に苛立ちをおぼえます。昨年の総選挙後、少しは明るい経済状況を展開しつつあるとはいえ被災されました会員および関係者の皆様には一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

関西大学大学院修了生の総数は18,000人に及び、校友会組織の中でも大所帯を誇る同窓会に成長を遂げてまいりました。現在の関西大学大学院は、法学、文学、経済学、商学、社会学、総合情報学、社会安全、東アジア文化、ガバナンス、理工学、外国語教育学、心理学、法務、会計、臨床心理の15研究科を擁し、日本屈指の大学院に発展・成長しております。

去る3月21日に挙行されました大学院学位記授与式では、628名の修士と108名の専門職を合せた736名の修了生および30名の博士を本会の新たなメンバーとして迎えるとと

もに、昨年9月期の学位記授与式では20名の修士と16名の専門職の計36名の修了生および12名の博士を迎えました。また、昨年9月期の入学式では博士課程前期課程12名、同後期課程7名の計19名および本年4月2日に行われました大学院入学式では15研究科699名のフレッシュな院生を迎え、関西大学の学問および研究の中枢として今後益々の母校飛躍の一翼を担っていただくことを切に期待するものであります。

下記にご案内のとおり、来る8月3日（土）には平成25年度博修士会総会・学術講演会を開催いたします。本年度の総会後の学術講演会では、昨年度に文部科学大臣表彰を受けられた関西大学先端科学技術推進機構長であり、化学生命工学部教授の石川正司先生をお招きして、地球の未来を救う「これから社会に不可欠な蓄電技術」に関する講演をお願いすることになっております。会員の皆様には是非ともご出席戴き石川先生と親しく意見を交わしていただきたいと存じております。

会員の皆様には、公私にわたり大変ご多忙のこととは存じますが、万障お繰り合わせの上、8月3日（土）、関西大学校友・父母会館にて開催の平成25年度博修士会総会・学術講演会ならびに懇親会にご出席下さいよう心よりお待ち申し上げております。

平成25年度 総会・講演会・懇親会のご案内

日 時：平成25年8月3日（土） 13：00より受付開始
場 所：関西大学千里山キャンパス：校友・父母会館
内 容：

- 第1部：総 会**
13：30～14：30 2階会議室
- 第2部：学術講演会**
14：40～15：40 2階会議室
演題：「これからの社会に不可欠な蓄電技術とは！」
講師：石川 正司 先生
(先端科学技術推進機構長、化学生命工学部教授)
- 第3部：懇 親 会**
15：50～17：30 2階会議室

懇親会参加者：会員と会員の紹介者に限定（事前申込制：郵便振替とします）
懇親会費：会員と同伴者は 5,000円、院生会員は無料
お願い：ご出席の方は、7月20日（土）までに、事前に郵便振替でお申し込み下さい。

- 郵便振替 00900-2-68733
関西大学博修士会
通信欄に「懇親会費」
などご記入下さい。
- 問合せ先
■TEL 06-6368-0810
または
06-6368-0894
06-6388-8785
総務部 中原 宛
- FAX nakahara@kansai-u.ac.jp
- e-mail 〒564-8680
吹田市山手町3-3-35
- はがき 関西大学システム理工学部
中原 気付 博修士会



先端科学技術推進機構長、化学生命工学部教授

石川 正司 先生

会員からのメッセージ

大阪府学校秀麗会・同退職者会について(経緯と展望)



大阪府学校秀麗会退職者会
会長 小田 博茂 (昭39学法／42学文)
事務局長 早苗 良雄 (昭46修文)

秀麗会、退職者会とは

昭和57年、大阪府立高等学校に勤務する教員有志で「大阪府立高等学校秀麗会」が、相互の親睦と研修を主たる目的として結成された。発足時は博修士のみであったがその後、学部卒業者を加えて組織は一段と拡充され、以下の経緯を経て今日に至り、平成24年12月15日の総会時には機関誌『秀麗会報第20記念号』を発行するに至っている。(第1号は昭和63年8月29日に発行)

この間の経緯は、概ね次のとおりである。

平成13年には、研修の実を高めるため、内部に「秀麗塾」が設けられ、教育現場外からの知見も得べく、外部から講師を迎えるなど工夫を凝らしながら年に数回開催、今日まで続いている。

また、学校事務など行政分野の方々もメンバーとし、さらに平成19年には高等学校の枠を越え、小・中学校関係の方々も加え、名も「大阪府学校秀麗会」として組織を拡充し、その目的も大きくは「大阪の教育に寄与」せんとしている。

一方、平成21年に退職者(秀麗会OB・OG)の数が多くなってきたことを踏まえて、相互の交流と研鑽及び現役支援を目的とし、学校秀麗会や大学との連携をも進め、大阪の教育向上・発展に資するべく「大阪府学校秀麗会退職者会」が組織された。両者とも志はとてつもなく大きいが、その意気を感じ取っていただきたい。

退職者会の動き

現職教職員を主とする秀麗会は、年次総会・秀麗塾・大学シンポジウムへの講師派遣など創意工夫をしながら運営されている。一方、退職者会の当面の課題は、現役支援である。大学内で自主的に運営されている教員採用試験対策有志勉強会の要望(筆記・面接試験、模擬授業などへの助言等)をくみ取り、いかに対応しうるかを考慮しつつ、こうした状況(交通費を含めすべて無償のボランティアでの支

援)を全会員に示し、3月に4回支援試行を実施(面接、模擬授業練習助言)し、続けての要望を受けて4、5月には模擬授業練習に参加、助言をしている。

6月に入ると教育実習が本番となるので、勉強会の活動は次年度試験を踏まえた秋以降に具体化すると思われるが、どうなるかは学生次第である。

ただ、この支援は、勉強会参加者の要望に応える形で行っているので、本来の大学教育に齟齬をきたすことのないよう十分に配慮し、意識的な棲み分けの構えが必要である。大学との有機的連携があるとさらによいが、これは今後の課題である。

今後どうする?

さて、今日ほど大阪の教育に多くの耳目を集めたことは、かつてなかったことと思われる。

具体的には、教育行政基本条例、府立学校条例(大阪市は学校活動活性化条例)の制定、学校協議会委員の教育委員会委嘱(以前は校長委嘱)、学校ホームページを用いた学校情報の公開、校長登用の原則公募、高校普通科学区制の撤廃(平成26年)、さらに学校再編整備(統廃合)、学校選択制(小・中学校)の導入等である。

こうした多岐にわたる変革の中にあって、本来の教育が何であるかを正面で捉えていくエネルギーを生みだし、放出していくのが我々秀麗会の使命ではないかと考える。その際には、卓越性を活かす、公平性を備える、多様性を尊重するといった多面・重層的な教育観点を備えた具体的行動をもって、生徒、先生、学校が伸びる道を探っていきたい。



平成24年度退職者会総会の一場面

イランと日本の文化交流にむけて



文学研究科
ピレハディ・バハレイ
(平25博文)

私は2008年度に博士後期課程に入学し、川端康成の代表作である『雪国』についての研究を始めました。私が日本近代文学を専門として、研究することを選んだ理由は、現在イランでは、日本文学について研究している人が少なく、殆どのイラン人は日本の文学作品や日本文学についての知識がないからです。私は日本近代文学の博士号を取り、母国であるイランに帰って、日本や日本文学に興味のある学生に日本文学を紹介することができることを望み、博士論文を書くことに励みました。

私は学部生時代に、国際文化学科で学びましたが、最初は日本文学の研究を始めた時に、沢山の壁にぶつかりながら、時には失敗することもありました。しかし、日本文学の研究をしながら、川端康成の『雪国』をペルシア語に翻訳することができ、これはイラン人に日本文学を紹介できる一つの方法だという事に気が付いたときに大きな喜びを感じられました。

その後、曾野綾子の『哀歌』と前田河広一郎の『三等船客』も博士論文の研究に取り入れることで、時代の異なる作品の内容と伝えているメッセージを比較しながら、それぞれの作品の歴史と時代背景も知ることができ、面白い発見をもとに、博士論文を書き終えました。

日本で勉強や研究を行っている外国人学生にとって日本語で論文を書くことはとても大変な挑戦だと思いますが、自分たちの母国ではない言語で論文を書く難しさを体験することで、より粘り強くなつて論文に取り組めると考えられます。ですから、結論として、日本人とは違った視点を持った論文を生み出せるということが言えるで

しょう。

私は博士号を取得し、今年の9月から、イランのテヘラン外国語大学の講師になり、日本語、日本文学と日本文化を教える予定になっています。

これからも母国で大学の講師をしながら、川端康成が日本文化に触れている『古都』と『千羽鶴』という小説についての研究を行い、ペルシア語に翻訳して紹介していきたいと思っています。

イランと日本は経済的に深く交流していますが、文学や文化的な交流がそれほど多くないために、私が日本の小説をペルシア語に翻訳していくことで、イランと日本の文学と文化の交流の架け橋になれば幸いに思っています。

そして、研究者として生きていく上で、日本に留学してから、今までに生活をしてきて得られた経験をもとに、日本語で小説を書きたいと考えて、そのための材料を集めています。

研究者として、作家たちの小説について研究を行い、論じていくだけではなく、作家が小説を書き上げるときは、どのような気持ちで小説を書いているかをわかるために、実際に小説を書いておかなければならぬと思っています。

そして最後に、関西大学で学んだことをもとに、よりよく日本語、日本文学、日本文化を専門的に勉強しているイランのテヘラン外国語大学の大学生に教えたいと思っています。自分を現在まで指導して下さった指導教官たちを目標に、日本に関してのすべてのことを教えられるように頑張って行きたいと思っています。

臨床心理士とは



心理学研究科
加川 千尋
(平25博心理)

私は、関西大学社会学部を卒業後、関西大学臨床心理専門職大学院に入学しました。社会学部に在学中の頃から、福祉領域で心理士として働くこ

message

とを希望しており、卒業後すぐに臨床家として働くことができるようになると、実習授業の多い当大学院を選択しました。

大学院の1年目は、心理士とは何か、カウンセリングとはどのようなものかを言葉にして説明する力を培いました。当初は現場での実習がなく、「心理士とは何か」を考える授業が繰り返されることに焦りを感じ、早く実地で訓練を積みたいと考えてきました。そもそもなぜ「心理士とは何か」を考えなければならないのかというと、多くの職場では心理士は医師や教師、保育士などの他職種スタッフに混じって働かなければならず、心理士は1名だけという現場も少なくないからです。他職種スタッフからすると、心理士の仕事内容は一見するとわかりにくいものです。カウンセリングの中で話を聞くことがどのような効果をもたらすのか、心理士は現場でどのように役立つかなど、私が今まで深く考えてこなかったことを現場では他職種スタッフからよく疑問視されるのだと知りました。実際に大学院を卒業して、児童養護施設で心理士として働き始めると、他職種スタッフからそう言った質問やカウンセリングへの誤解をたびたび投げかけられることを実感しました。大学院でカウンセリングや心理士について説明する方法を学んでいたからこそ、他職種の意見に戸惑わずに理解することができました。現場実習だけではなく、現場を見据えた当大学院の授業内容は、働き始めて役に立つことが多いと改めて実感しました。

2年目になると、現場でカウンセリングや心理検査を実施する機会が増え、より実践的な学びとなりました。カウンセリングでは、実施後に対話内容をすべて逐語記録として文書化し、自分の応答について逐一指導を受けることができました。また、心理検査では、検査の実施方法はもちろん、検査所見の書き方なども丁寧に教えていただくことができました。実際に働いてみると、心理士の仕事は文章で何かを伝えることが多く、読み手が誤解しないように書くことの難しさを実感しております。大学院時代にご指摘いただいたことを思いだし、実践の場で活用できていることを嬉しく思っております。また、大学院で事例論文を執筆する際に自分のカウンセリングに対する姿勢について深く考え振り返ることができましたことも、児童養護施設でのカウンセリングに大いに活かされています。

大学院の2年間という限られた時間の中で全てを学ぶことはできませんが、今後学んでいく上での基盤を培うことができたように感じます。今後多くの先生方にアドバイスをいただき、様々な書籍に触れ学会や研修会に参加することによって、自分の技術を向上させたいと考えております。また、今秋には臨床心理士試験も控えております。大学院では卒業後も試験対策講座を設けてくださっており大変ありがとうございます。講座を活用しながら、これからも勉強に励む所存であります。

特別協力金納入者名簿 (五十音順、敬称略)

(平成25年3月31日現在)

天井 一夫	網本 浩幸	石川 兼太朗	石原 陽子	今村 隆	岩井 治夫	江原 静
緒方 正則	加藤 正則	笠原 俊幸	北川 均	北嶋 弘一	北村 英子	紀和 隆
楠見 晴重	倉持耕治郎	後藤 安子	齋坂紀八郎	笹倉 淳史	笹邊 将甫	竿田 翁夫
鹿田 幸治	篠塚 義弘	神保 敏明	杉本 隆史	辰巳 浅嗣	椿 信三	富田 俊
内藤 征一	中浦 茂雄	中橋 久史	中原 住雄	西川 俊輔	西崎 義男	羽間 弘
羽生 和子	林 雅明	日野上輝夫	平野 裕	福田 憲治	藤井 栄二	藤井 昭三
藤井 健夫	本田 誠	松田 充弘	松本 始	松村 弘	真部 和義	明神 信夫
武藤 哲生	山本 善章	安田 桂奈	吉原 榮徳	吉村 耕治	横田 伸敬	横山 清美

博修士会からのお願い

特別協力金のご協力をいただきました会員の皆様に厚くお礼申し上げます。会の財政が逼迫しておりますので、本年度も引き続きご協力をお願いいたします。1口1,000円、できれば2口以上お願いいたします。また終身会費15,000円を未納の方は、納入をお願いいたします。

郵便振替 00900-2-68733 関西大学博修士会

大学院ニュース

Graduate School News



理 工 学 研 究 科 の チ ュ ラ ロン コン 大 学 と の 交 流

国際部副部長・化学生命工学部教授 田村 裕

チュラロンコン大学は1917年に設立されたタイ王国において最も古い歴史をもつ、権威ある国立大学である。現在18の学部と多数の研究施設があり、キャンパスはバンコク市街に位置している。大学名はチュラロンコン大王（ラーマ5世）に由来し、後継者であるワチラーウット王（ラーマ6世）によって設立された。

関西大学は同大学と大学間の基本協定および学生交換協定を締結しているが、交流の発端は小職の元上司である戸倉清一先生が北海道大学を定年退官後関西大学へ来られたことにある。一人のタイ人女子留学生が北大時代の戸倉研で学位を取得後、チュラロンコン大学石油・石油化学研究科（以下PPC）の講師となった。師弟の関係は戸倉先生が関西大学へ移られてからもなお濃厚で、双方の行き来につきあうことになった小職へ引き継がれることとなった。当初は研究室単位での交流であったものが、平成18年夏に工学研究科と科学技術振興会の共催でチュラロンコン大学においてシンポジウムを開催したことが契機となり、部局間の基本協定および学生交換協定を締結することとなった。また、平成19年夏には東南アジアの他の協定校の参加も得て理 工 学 国際シンポジウムを関西大学で開催した。この国際シンポジウムは輪番で開催してきており、本年8月関西大学で第8回目を迎えるが、PPCはその中心的なパートナーである。また、部局間協定に基づきPPC及び理 工 学 研 究 科 の 大 学 生 が 数 ヶ 月 間 、 相 互 の 研 究 室 を 訪 問 し て 共 同 研 究 に 従 事 し て き た 。 この よう に 、 理 工 系 に お け る 学 生 交 換 は 学 部 生 で は 難 し い

が、教員間の共同研究に基づく大学院生の短期派遣という形で結実するケースが多い。そのことを踏まえ、PPCに加えて理学部とも部局間協定を締結している。PPCは毎年 PPC シンポジウムを開催しているが、PPCの要請により平成20年より理 工 学 研 究 科 から 大 学 生 を 伴 って 参 加 し て い る。

このような理 工 学 研 究 科 の 交 流 実 繢 が 認 め ら れ、 平 成 21 年 に 大 学 間 の 基 本 協 定 お よ び 学 生 交 換 協 定 を 締 結 し た。 ま た、 平 成 24 年 に 関 西 大 学 バンコクオフィスを開設するにあたり PPC の 施 設 内 に 無 償 で スペース を 提 供 し て もら え た こ と は、 理 工 学 研 究 科 と PPC と の 深 い 信 頼 関 係 が あ っ て の も の と 言 る。 な お、 バンコクオフィス の 担 当 者 は 学 生 交 換 協 定 に 基 づ いて 関 大 の 研 究 室 へ 滞 在 経 験 の 有 る 者 で あ る。

これまでのチュラロンコン大学との交流において教員のみならず実際に多くの大学院生が関与してきた。既に修了して企業等に就職した者同士がタイあるいは日本で交流しているという話を耳にする度に、一人のタイ人女子留学生が日本の地へ足を運んだ事が着実に次世代へ引き継がれていることを実感する。



第17回 PPC シンポジウムにて、理 工 学 研 究 科 か ら の 参 加 者 （平 成 23 年 4 月）

総会議案書

〈第1号議案〉

平成24年度事業報告

平成24年4月 1日から
平成25年3月31日まで

[1] 総会に関する事項

☆60周年記念総会・学術講演会・懇親会（総参加者数93名）

開催日時：平成24年7月1日（日）11:00～

開催場所：ホテル阪神（大阪市福島区）

来賓：上原 洋允 理事長
楠見 晴重 学長
市原 靖久 副学長
寺内俊太郎 校友会会長
紀和 隆 評議員会副議長
東郷 洋 校友会事務局長
片山 久江 関西大学理事
仁井ひろみ 女子秀麗会長

◇第1部 総会（議事）：10Fクリスタルルーム

- (1) 平成23年度事業報告
- (2) 平成23年度収支決算および監査報告
- (3) 平成24年度一般会計収支予算案

◇第2部 学術講演会（女子秀麗会と合同）：10Fザ・ボールルーム
演題：『京都 千年の地下水脈！』

講師：関西大学 学長 環境都市工学部 楠見 晴重 教授

◇第3部 懇親会（女子秀麗会と合同）：10Fザ・ボールルーム

[2] 役員会に関する事項

◇理事会

- ・平成24年4月2日（月）18:00～
関西大学100周年記念会館 レストラン紫紺「桃源」
(60周年記念総会・学術講演会・会報発行計画・決算・予算の件、その他)

◇常任理事会

- ・平成25年3月1日（金）18:00～
関西大学100周年記念会館 レストラン紫紺「桃源」
(修士記授与式、入会案内・入会受付手続き・記念写真撮影の件、平成25年度総会・学術講演会・会報発行計画等)

◇その他

- (1) 平成24年4月2日（月）
 - ・大学院入学式に出席（千里山中央体育館）（会長コーナー）
院生会員への勧誘資料配布（総務部・広報部・財務部）
- (2) 平成24年4月8日（日）
 - ・2012スプリングフェスティバル（千里山キャンパス）に参加（会長コーナー）
- (3) 平成24年6月9日（土）
 - ・校友会第99回定時代議員会（関西大学100周年記念会館）に出席（会長コーナー・総務部）
- (4) 平成24年7月1日（日）
 - ・「会報2012年号：博修士会創立60周年記念号」を編集・発行（広報部）
- (5) 平成24年10月21日（日）
 - ・平成24年度校友会総会（関西大学BIGホール100）に出席（全部署）
- (6) 平成25年1月15日（火）
 - ・校友会新年互礼会（大阪新阪急ホテル）に出席（会長コーナー）
- (7) 平成25年1月26日（土）
 - ・校友会臨時代議員会（関西大学100周年記念会館）に出席（会長コーナー・総務部）
- (8) 平成25年3月21日（木）

- ・学位記及び博士課程後期課程単位修得証書授与式（関西大学BIGホール100）に出席（会長コーナー）
- ・新会員の入会勧誘資料配布（総務部・渉外部・財務部・広報部・事業部）
- ・記念写真撮影（渉外部・事業部・総務部）

〈第2号議案〉

平成24年度収支決算報告書

一般会計収支決算書

自 平成24年4月 1日
至 平成25年3月31日

(収入の部)

項目	予算額	実行額	(単位：円) 差引差額
経常収入	1,381,000	1,154,182	226,818
1.会費収入	300,000	303,000	△3,000
①正会員入会金収入	60,000	27,000	33,000
②院生会員入会金収入	240,000	276,000	△36,000
2.事業収入	530,000	350,000	180,000
①総会会費収入	500,000	350,000	150,000
②広告料収入	30,000	0	30,000
3.雑収入等	551,000	501,182	49,818
①雑収入	50,000	108,000	△58,000
②特別協力金収入	500,000	393,000	107,000
③受取利息	1,000	182	818
前期繰越金	1,942,824	1,942,824	0
合計	3,323,824	3,097,006	226,818

(支出の部)

項目	予算額	実行額	(単位：円) 差引差額
経常支出	1,503,000	1,432,987	70,013
1.一般管理費	233,000	158,403	74,597
①通信費	70,000	38,793	31,207
②事務用消耗品費	100,000	75,630	24,370
③支払手数料	13,000	11,980	1,020
④雑費	50,000	32,000	18,000
2.会議費	570,000	446,269	123,731
①総会費	500,000	424,619	75,381
②諸会議費	70,000	21,650	48,350
3.事業費	700,000	828,315	△128,315
①印刷費	400,000	524,315	△124,315
②修士記授与記念写真費	100,000	124,000	△24,000
③記念品費	200,000	180,000	20,000
予備支出	30,000	0	30,000
予備費	30,000	0	30,000
当期支出合計	1,533,000	1,432,987	100,013
次期繰越金	1,790,824	1,664,019	126,805
合計	3,323,824	3,097,006	226,818

総会議案書

特別会計収支決算書

奨学金特別基金

自 平成24年4月 1日

至 平成25年3月31日

(単位:円)

収入の部	金額	支出の部	金額
前期繰越金	1,204,150	次期繰越金	1,204,342
受取利息	192		
合 計	1,204,342	合 計	1,204,342

名簿特別勘定

自 平成24年4月 1日

至 平成25年3月31日

(単位:円)

収入の部	金額	支出の部	金額
前期繰越金	853,000	次期繰越金	853,137
一般会計より入金	0		
受取利息	137		
合 計	853,137	合 計	853,137

財産目録

平成25年3月31日現在

(資産の部)

(単位:円)

科目	摘要	金額
普通預金	一般会計収支(りそな/難波)	630,353
振替貯金	一般会計収支(ゆうちょ/大阪事務センター)	774,470
通常貯金	一般会計収支(ゆうちょ/大阪事務センター)	262,196
小計		1,667,019
普通預金	特別会計奨学生特別基金用(りそな/難波)	1,204,342
普通預金	特別会計名簿特別勘定用(りそな/難波)	853,137
合計		3,724,498

(負債及び正味財産の部)

(単位:円)

科目	摘要	金額
預り金		3,000
正味財産	次期繰越金合計	3,721,498
合計		3,724,498

監査報告書

関西大学博修士会

会長 北嶋 弘一殿

私たちは、平成24年4月1日から平成25年3月31日に至る一般会計収支決算書、奨学生特別基金および名簿特別勘定の特別会計収支決算書、ならびに財産目録について監査を実施いたしました。

監査の結果、上記決算書類は、適正なものであることを認めます。
平成25年5月16日

監事 澤 勲
監事 竹田嗣夫
監事 水野一郎

〈第3号議案〉

平成25年度一般会計収支予算(案)

自 平成25年4月 1日

至 平成26年3月31日

(収入の部)

(単位:円)

項目	25年度予算	摘要
経常収入	1,101,000	
1. 会費収入	420,000	
① 正会員 ② 院生会員 ③ 入会金収入	60,000 360,000	正会員入会見込 院生会員入会見込 15,000円×4人 12,000円×30人
2. 事業収入	330,000	
① 総会会費収入 ② 広告料収入	300,000 30,000	総会出席見込 広告掲載見込 10,000円×30人 10,000円×3件
3. 雑収入等	351,000	
① 雜収入 ② 特別協力金収入 ③ 受取利息	50,000 300,000 1,000	お土産料・記念写真代他 預金利息等
前期繰越金	1,664,019	
合計	2,765,019	

(支出の部)

(単位:円)

項目	25年度予算	摘要
経常支出	1,083,000	
1. 一般管理費	223,000	
① 通信費 ② 事務用消耗品費 ③ 支払手数料 ④ 雑費	60,000 100,000 13,000 50,000	総会、役員会案内発送費 文房具、事務用品費 振込、振替送金手数料
2. 会議費	370,000	
① 総会費 ② 諸会議費	300,000 70,000	総会会場費、懇親会費 役員会会議費等
3. 事業費	490,000	
① 印刷費 ② 修士記授与 ③ 記念品費	350,000 100,000 40,000	会報、総会案内状印刷費
予備支出	30,000	
予備費	30,000	
当期支出合計	1,113,000	
次期繰越金	1,652,019	
合計	2,765,019	

* 予備費の支出は、役員会の承認を得るものとする。

〈第4号議案〉

役員改選



女子秀麗会と博修士会合同で 講演会・懇親会を開催

2012年7月1日(日)、博修士会は創立60周年を記念して、女子秀麗会と合同でJR福島駅近くのホテル阪神に参集した。当日は、午前11時から各々の総会を、午後12時半から合同で学術講演会と懇親会を総勢93名の参加によって開催した。上原洋允理事長をはじめ、寺内俊太郎校友会長、東郷洋校友会事務局長、市原靖久副学長、紀和隆評議員会副議長など多数の来賓のご参加を頂いた。

学術講演会の講師には、関西大学 楠見晴重学長（環境都市工学部教授）をお招きして「京都 千年の地下水脈」と題した素晴らしいお話を頂いた。千年を超える京都繁栄の歴史を支えたのが京都盆地の地下水であり、京都と水との関わりについて、催事や食文化など多くの事例を示されて分り易く説明頂いた。

楠見先生の20年以上にわたる調査・研究により、京都盆地の地下には琵琶湖に匹敵する約211億トンの地下水が蓄えられていることが判明し、「京都水盆」と名付けられた。



楠見晴重学長

引き続い
て開催した懇親会では先生
がご持参頂いた京都伏見の
酒の試飲・飲み比べを行
ながる、大いに盛り上がった。
4年振りの合同開催

で、互いに意義ある楽しい時間を過ごすことができ、終始賑
やかで和やかな会はあつという間に過ぎた。最後に、参加者
全員が1つの輪になって逍遙歌を歌いお開きとした。

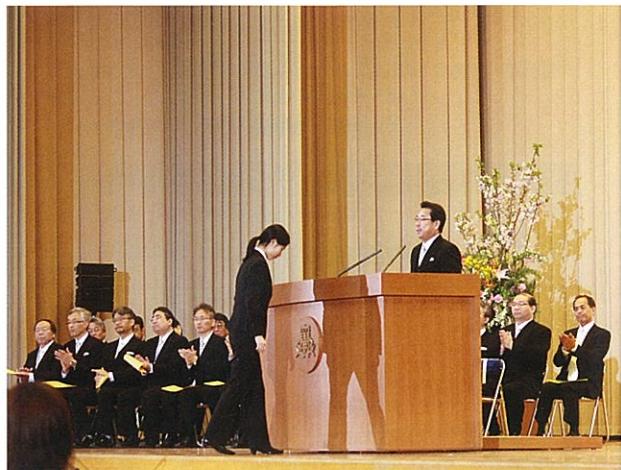
(博修士会広報部)



再会を願い記念撮影



736名の新修士の誕生 698名の新入生を迎える



平成25年度大学院入学式

平成24年度関西大学大学院学位記（修士・専門職）授与式は3月21日に千里山キャンパスのBIGホール100で行われた。本年度の前期課程では修士の学位被授与者は628名、専門職大学院学位被授与者は108名、合計736名であった。また、博士課程後期課程単位取得者は47名、修了者は33名、合計80名であった。当日の会場は、修了生とそのご家族で満員であった。高度な技術と知識を身につけるために真理の探究に日夜研鑽してきた修了生に対して、楠見学長は、今日の地球社会は、地域の高齢化、アジア・アフリカの人口増加と資源をめぐる問題、中国の大気汚染をはじめとする地球環境問題、テロリズムや戦争など、大きな課題をかかえているが、関西大学大学院で学び、研究生活を送ることで得た経験を積極的に生かして地球社会の未来に寄与することを希望した。

平成25年度の大学院入学式は4月2日に千里山中央体育館で行われた。今年度の入学者は博士課程前期課程ならびに修士課程569名、博士課程後期課程40名、専門職大学院89名、合計698名であった。楠見学長は、専門領域の研究には日々の地道で着実な歩みの中でロマンを感じるものに出会うことができるが、逆に「挫折」も経験すると話された。しかし、ノーベル生理学・医学賞を受賞された京都大学の山中伸也先生のご経験に触れられ、山中先生が「挫折」の経験から得られた独創的研究に必要な「Vision and Hard Work」を引用し、新入学生が大学院生活において、自己の研鑽を怠らず精神と身体を鍛えつつ研究に邁進するように希望を表明した。

(博修士会広報部)

お知らせ！

ホームページも見て下さい！

<http://www2.ocn.ne.jp/~kandaimd/>

2013年

発行人 北嶋 弘一／編集人 北川 勝彦
発行所 関西大学博修士会
〒564-8680 吹田市山手町3-3-35 関西大学大学院内